

TPP協定による本県農林水産業への影響 ④ <畜産加工品>

牛タン

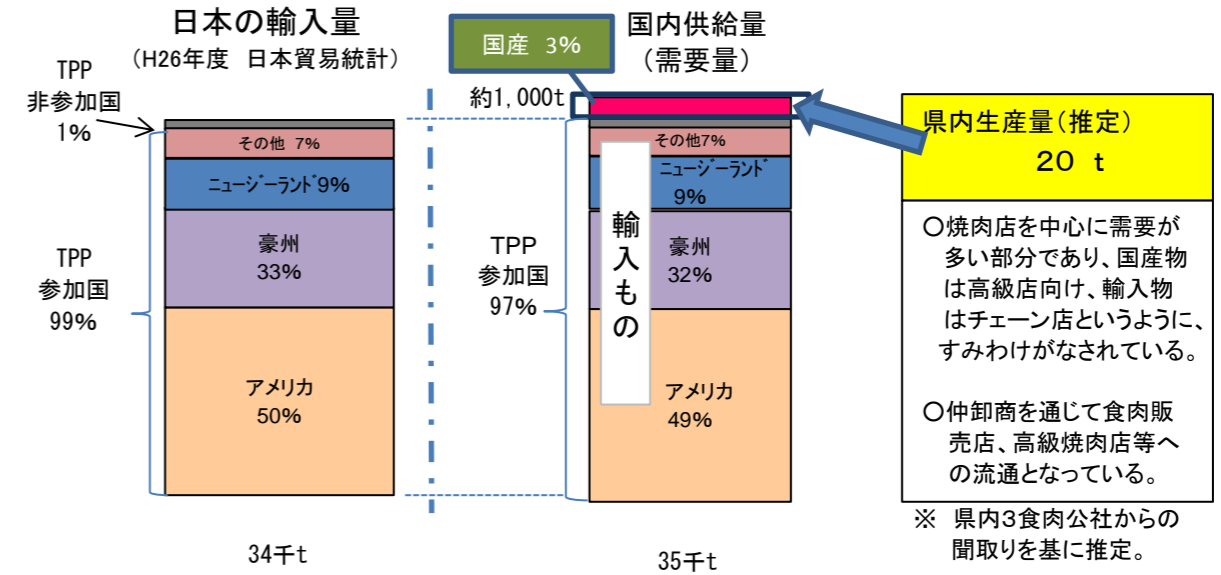
TPP合意内容

- 現行関税率 12.8%
- ↓
- ◎初年度 6.4%(▲50%)とし、以降毎年同じ割合で削減し11年目に撤廃



影響

- 政府によれば、既に国内需要の97%がTPP交渉参加国から輸入されており、関税が撤廃されても影響は限定的(輸入量が急激に増えることは考えにくい)とされている。
- 国内産牛タンのシェアは3%と少ないものの、焼肉等の食肉用として販売されている現状において、安価な輸入牛タンの量が増加すれば、これらに引っ張られて長期的には国内産牛タンの価格の低下が懸念される。
- 牛タンは、内臓肉と同様に食肉処理場の大きな収入源となっているため、価格の低下により、食肉処理場の経営に影響が及ぶことが懸念される。



牛内臓(ハラミ等)

TPP合意内容

- 現行関税率 12.8%
- ↓
- ◎初年度 6.4%(▲50%)とし、以降毎年同じ割合で削減し13年目に撤廃

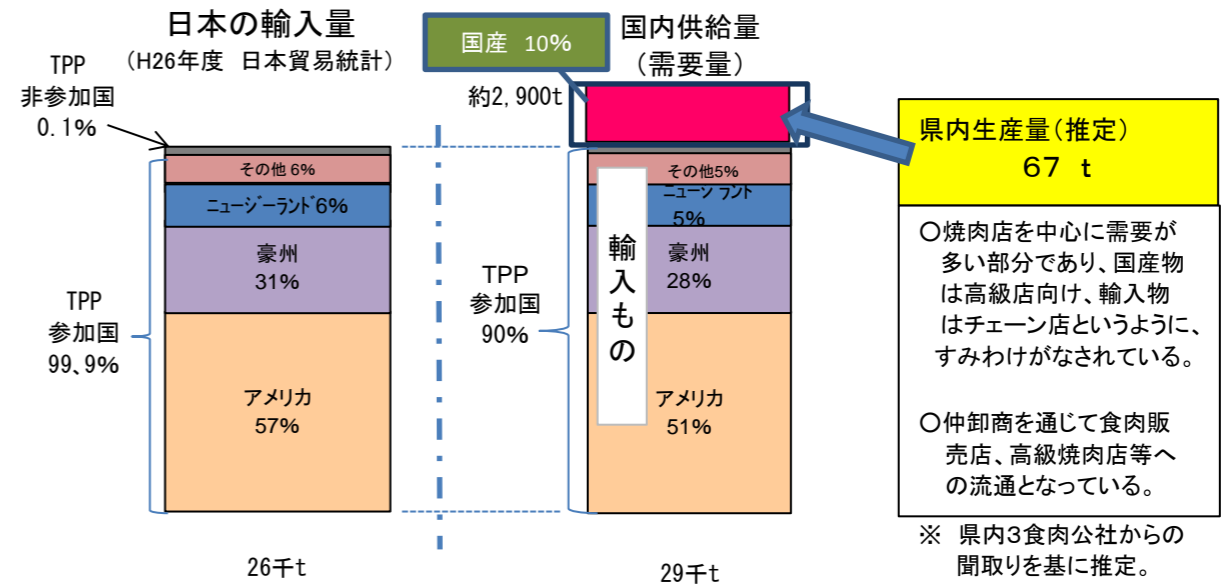
※ハラミ等には、ハラミ、サガリ、その他の臓器(肝臓以外)を含む。



影響

- 政府によれば、既に国内需要の90%がTPP交渉参加国から輸入されており、関税が撤廃されても影響は小さい(輸入量が急激に増えることは考えにくい)とされている。
- 国内産ハラミ等の内臓肉のシェアは10%と少ないものの、焼肉等の食肉用として販売されている現状において、安価な輸入ハラミ等の量が増加すれば、これらに引っ張られて長期的には国内産ハラミ等の価格の低下が懸念される。
- ハラミ等は、食肉処理場の大きな収入源となっているため、価格の低下により、食肉処理場の経営に影響が及ぶことが懸念される。

※ハラミ: 横隔膜の背中側の内臓肉で、肋骨側をサガリと呼ぶ。柔らかい肉質で適度な脂肪で、焼肉や煮込み料理に使用されている。



豚肉調製品(ソーセージ)

TPP合意内容

- 現行関税率 10~20%
- ↓
- ◎ソーセージは 10%から毎年同じ割合で削減し 6年目に撤廃
- ◎ソーセージ等の原料は 20%から毎年同じ割合で削減し 6年目に撤廃



影響

- ソーセージは、製品として輸入されるほか、豚肉とコンショウ等を混ぜたシーズンドボークなどの豚肉調製品を原料輸入し、国内で製造されている。
- 関税が撤廃されれば、国産肉を原料として製造したソーセージとの価格差が広がり、安価な輸入品由来ソーセージの増加に引っ張られて、国産肉ソーセージの価格低下などの影響が考えられる。

※国産肉からの製造品と輸入原材料からの製造品の数量は食肉加工品仕向肉量(注)の国産物と輸入物の比率から推定。
注)割合は日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べ

